台湾人の9割が、5日以上滞在

台湾ネットユーザーの訪日旅行に関する意識調査

モンプラGlobal 調べ

アライドアーキテクツは、インバウンド集客プロモーション支援サービス「モニプラGlobal」で台湾のネットユーザーを対象にした「訪日旅行に関する意識調査」を行い、1月26日に結果を公開した。

今回の調査では、全体の75%が「訪日経験がある」と回答した。そのうち75%は「2回以上」と回答。年齢が上がるほどその傾向は高まり、30代後半から50代ではいずれも「10回以上」訪れた人の割合が1割を超えた。

訪日経験があると回答した人のうち、滞在日数の割合が最も多かったのは「5日間」(54%)で、次いで「6日間以上」(37%)となり、全体の9割以上が5日以上滞在している。

日本旅行中にやりたいこと・興味があるものは「温泉」(66%)がトップ、次いで「ショッピング」(58%)と「日本の風景」(58%)、「テーマパーク」(45%)となった。

日本旅行中の買い物における消費額は20代後半～50代前半で「5～10万円」が最も多かった。金額は年齢が上がるにつれて拡大し、60歳以上では「20万円以上」と回答した人の割合が3割近くに上った。

今後、日本で買いたいものは「食品」(81%)がトップで、化粧品(60%)、医薬品(54%)だった。「爆買い」で注目される「家電」は29%となった。

やりたいこと1位は「温泉」

日本での滞在先や土産品を決める際に最も活用している情報源は「ブログ」や「SNS」といったウェブ上の口コミが上位だった。

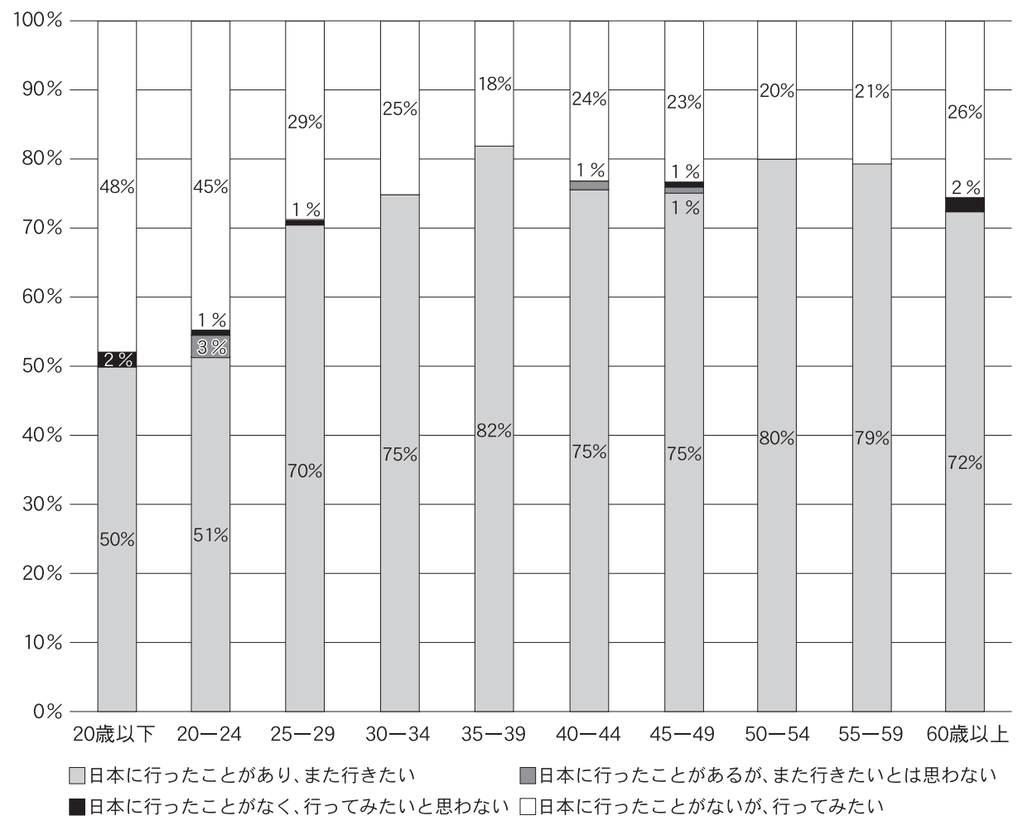
旅行中の買い物で最も重視するポイントは、駅やホテル、観光地からの「近さ」と回答した人が全体の26%を占めた。また「日本限定品が多数揃っている」(58%)や「品揃えが豊富」(11%)、「割引率が高い」(11%)といった具体的な商品の特性、魅力が上位に上がる中、「友人のすすめ」や「SNSで評判がよい」といった口コミを重視する人も合わせて16%に上った。

旅行中にあるとうれしいサービスとして最も多く挙げられたのは「無料Wi-Fi」(18%)で、次いで店舗で使用できる割引クーポンとなった。通訳や翻訳サービスはいずれも1割以下となっていることから、近年の訪日客はスマートフォンなどのインターネットのツールを駆使し、言語の壁を越えて観光やショッピングを楽しんでいることが分かった。

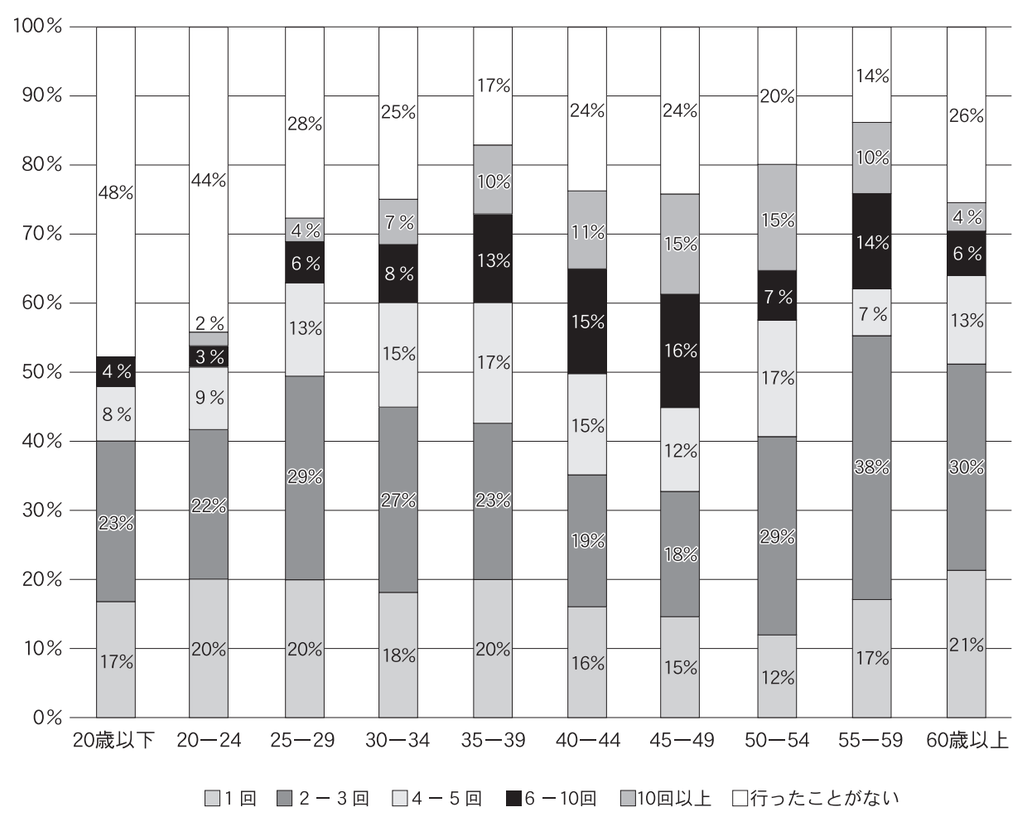
調査は台湾で約7割の対人口普及率を持つフェイスブックを活用し20～40代を中心としたネットユーザー1899人を対象に実施した。

調査データ

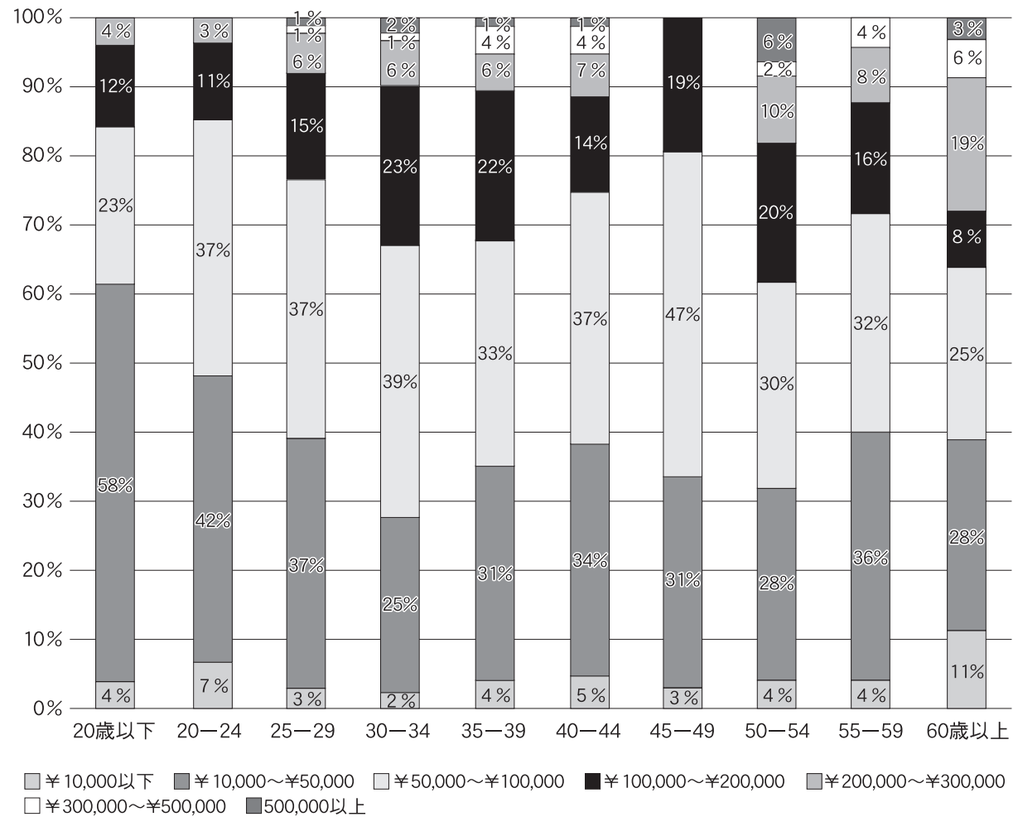
日本へ行ったことがありますか。また、行きたいと思いますか



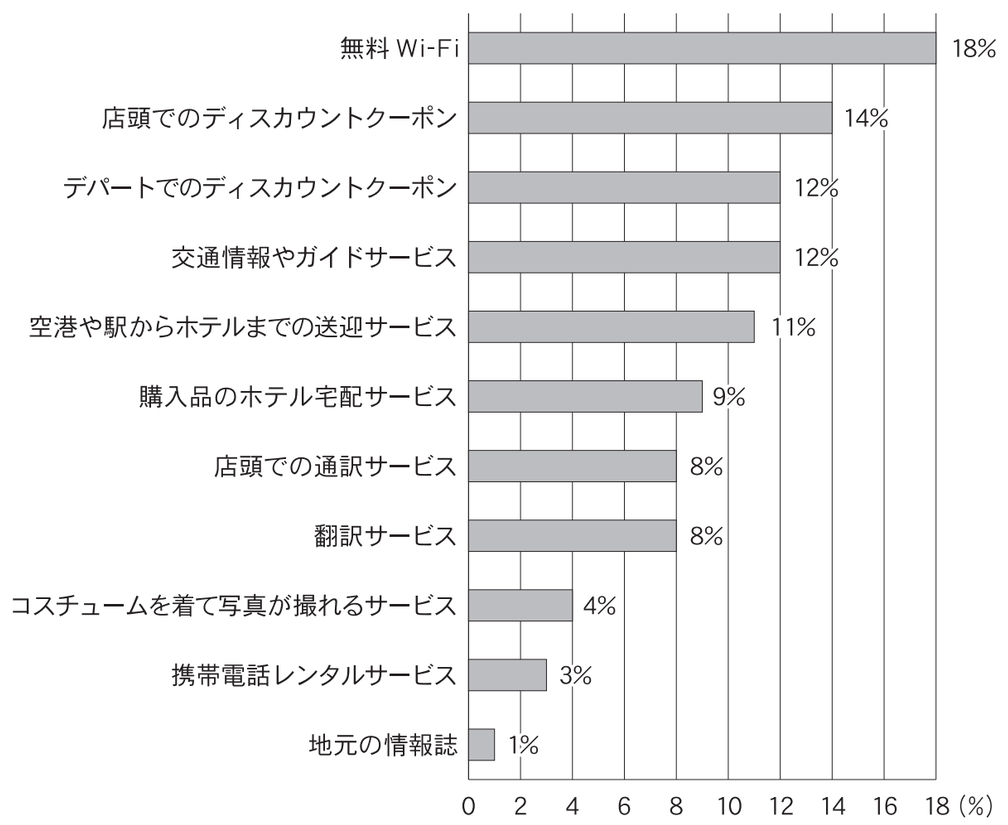
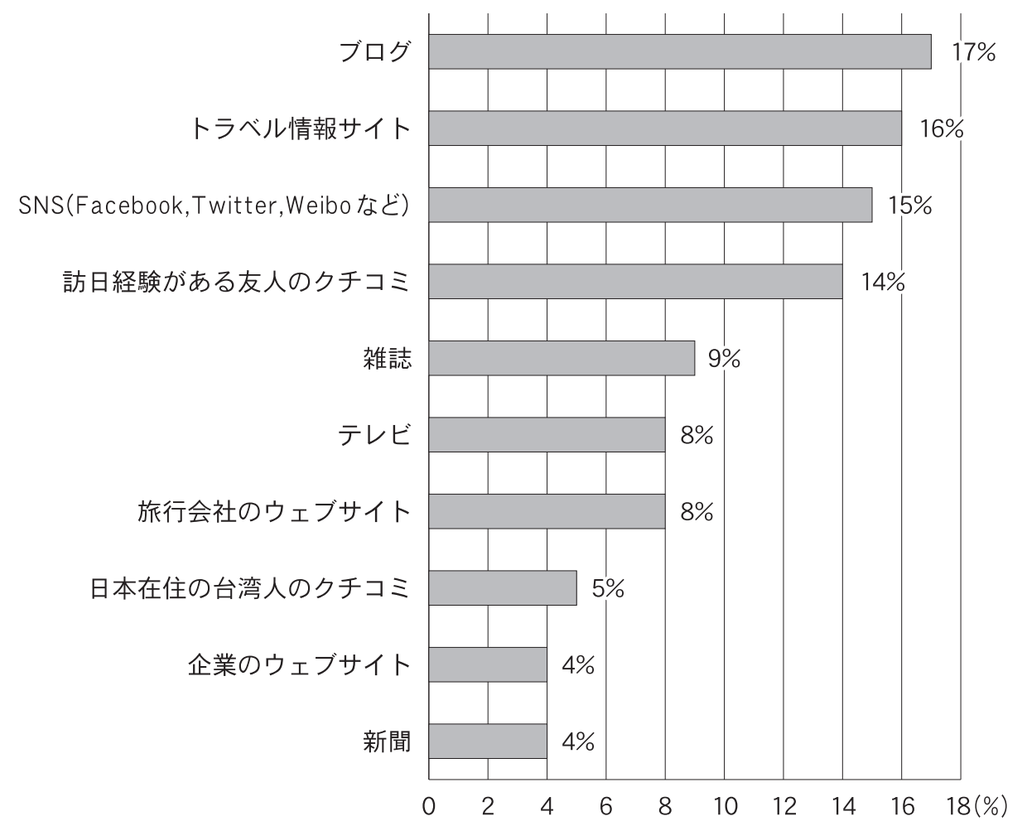
今までに日本へ何回行ったことがありますか



日本旅行中に、買い物にはどれくらいの金額を使いましたか



日本旅行中にあると嬉しいサービスは



滞在先や土産品を決める際に参考にする情報源は